

令和2年度の水稲栽培に向けて

○麦わらを有効活用しましょう

麦わらの焼却は煙による交通障害等の煙害を引き起こす危険性があります。

麦わらは良質な有機物資材であり、土壌の物理性を改善する効果があります。さらに水稲に有用な成分であるケイ素を含んでいるので、ほ場にすき込むことで水稲の倒伏軽減や登熟歩合の向上が期待できます。適切な処理を行い、麦わらを有効活用しましょう。

◆麦わらすき込みの留意点

◆長めに切断して均一に散布

ほ場での浮き上がり防止のために、15cm程度にわらをカットしましょう。

また、生育の障害とならないよう、ほ場全体に均一に散布するよう心掛けます。

◆窒素成分を多めに施肥

麦わらのすき込みを開始した年は、分解促進のため「スーパードラブレンド」や「農力アップ」等の腐熟促進効

果のある資材を施用しましょう。また、3年間は窒素肥料を2〜3割多めに施肥しましょう。

◆深めに耕うん

作土中にわらを分散させるため、なるべく深めの耕うんを心掛けましょう。また、分解を早めるため、なるべく早めに作業を実施しましょう。

◆浅水で代かき

入水後の浮き上がり防止のため、代かきの際は田面が見えるほどの極浅水で行いましょう。

◆ガス抜き

麦わらが分解されて発生するガスは水稲の初期生育に悪影響を与える場合があります。ガスの発生や部分的な生育の停滞、葉色の低下が見られた場合は、水稲の植付けから3週間後を目安に水尻を切って2、3日落水し、田面に露出させガスを抜きを実施しましょう。

○スクミリンゴガイ対策をしましょう

熊谷市では北部・東部地域を中心にスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）による水稲への食害が発生しています。被害や生息域の拡大を防止するため、対策を実施しましょう。

特徴と生態

スクミリンゴガイは繁殖力が非常に強く、夏に特徴的なピンク色の卵塊を畦畔や水路の壁等に産み付けます。冬季は土壌中で冬眠しており、越冬個体は入水後に活動を開始します。近年は暖冬により越冬生存率が上昇していると考えられています。



防除・対策

①耕うん

耕うんの際に貝を粉碎することで、

個体数を減少させることができます。特に越冬個体の多い水口や水尻、水路脇などの外縁部では、耕うん時の車速を低速にし、PTOの回転数を高めに設定して丁寧に耕うんしましょう。

②水管理

スクミリンゴガイは水深が浅いと活動が鈍ります。水稲は田植え後2週間程度で葉が固くなり、食害を受けにくくなるので、この時期まで浅水管理を行い食害を抑えましょう。

③薬剤散布

田植え後は薬剤による防除を行います。前述したように田植え後2週間の食害を防ぐため、田植え直後の散布を中心に防除計画を立てましょう。

④物理的防除

水路や畦畔に産み付けられた卵塊は、こまめに水没させて駆除しましょう。

⑤除草剤散布

本田初期の浅水管理で雑草の発生が多い時は、雑草の種類と葉齢に合わせて、中期・後期剤を使用しましょう。（大里農林振興センター 農業支援部）

